



研究者名※	杉崎 美生 SUGISAKI MIKI	学位※	修士(情報コミュニケーション学) 修士(英文学)
所属※	文学部 英文学科	職名※	助教
連絡先	sugisakim@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/mm-20369		
研究分野※	言語学、英語学		
研究キーワード※	語用論、談話研究、社会言語学		
共同研究・競争的 資金等の研究課題			
社会貢献・産学官 連携活動等			
受賞歴			

研究領域	談話研究	(SDGs)
研究テーマ※	日本語会話における「なんか」の語用論的機能の研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	【研究の背景・目的・内容】 話し合いなど共通の目的に向かって何かに取り組むとき、参加者全員が同じ意見を持っていればそれは円滑に進む。しかし、全てがそのように実行できるわけではない。相手と異なる意見を述べることはより良い結論に到達するためには避けられないことであるが、それを直接的に示す発言はコミュニケーション上の問題を引き起こす可能性が考えられる。本研究ではそのような場面で発言される「なんか」という語に着目し、この語がやり取りの中でどのような役割を果たしているか、その語用論的な機能を考察する。 【応用例、研究の展望】 相手との意見の異なりを指摘したり、相手に異なる行動を促したりするような場面を分析することによって、「なんか」の語用論的機能を明らかにすることができると考える。今後、様々なデータを用いることでその可能性を広げていく。 【研究方法の特色】 データは実験協力者たちが一つの課題に取り組む「課題達成談話」である。実験協力者たちは2名が一組となり、15枚のカードを並べ替えてひと続きのストーリーを作る課題を与えられ、互いに意見を出しながら取り組む。合計26組がストーリーを構築する過程で、一方が他方の考えに対して、別の意見や考えを持つような言語行為を抽出し、特に「なんか」とともに発言される言語現象を取り上げ、分析している。	
本研究関連 特許・論文等	・Miki Sugisaki. 2023. An Analysis of the Japanese Pragmatic Marker: Elaborative Function by <i>Nanka</i>, <i>Studies in English and American Literature</i>. 58. 107-132. ・杉崎美生. 2019.「発言修復場面における「なんか」の使用について」日本女子大学大学院文学研究科紀要, 26, 19-35. ・Shikano, Hiroko and Miki Sugisaki. 2019. How Japanese Speakers Use <i>Nanka</i> in Quasi-Internal Monologues during Interactional Discourse, <i>JELS</i> 36. 282-287. ・杉崎美生. 2019.「自己開示場面における「なんか」の働き—コミュニケーションの観点から—」『待遇コミュニケーション研究』第16号. 1-17. ・杉崎美生. 2017.「自己開示場面における「なんか」の即興性」日本女子大学大学院文学研究科紀要, 24, 81-92	
共同研究・外部機関 との連携への期待	・ ・	